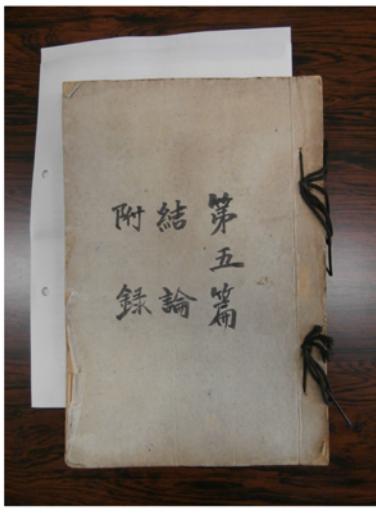
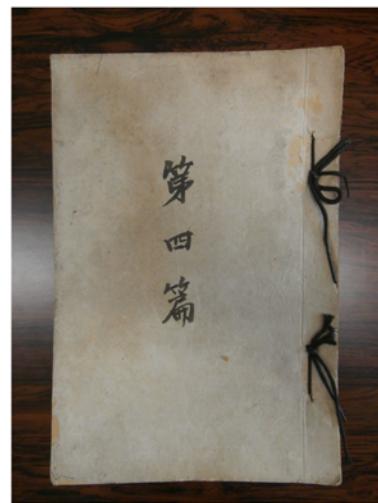
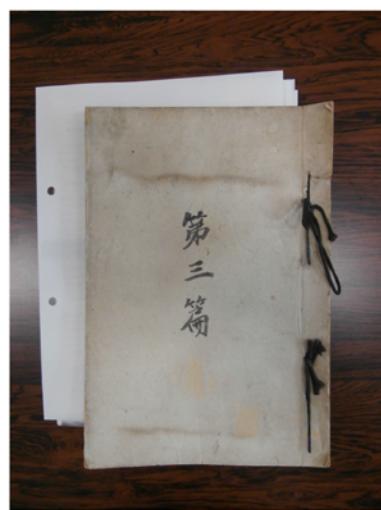
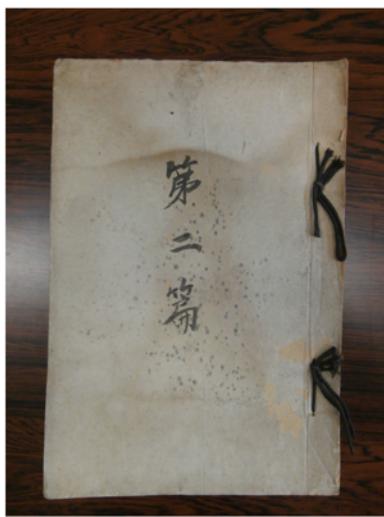
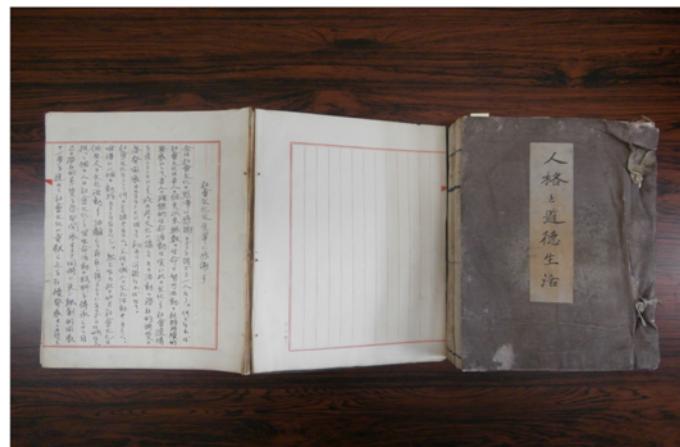


## 鈴木庫三の学位論文「人格と道徳生活」を読む—教育の視座から—

Reading the Doctoral Dissertation "Persoenlichkeit and Virtue in Life" of SUZUKI Kurazo from the Perspective of Education



鈴木庫三(1894・明治27年～1964・昭和39年)は陸軍情報将校(大佐)で、戦中、情報局情報官となり、言論を統制し「日本思想界の独裁者」と称されたが、他の側面も含めた多角的な評価が求められる。

佐藤卓己京都大学教授の『言論統制—情報官・鈴木庫三と教育の国防国家』(中公新書、2004年)に拠り、山田は『平和教育の思想と実践』(同時代社、2007年)で近衛新体制における鈴木の意義を論じた。さらに佐藤教授から鈴木の学位論文を預かり、その研究に努めている。

鈴木の研究の意義は、陸軍において学問的に高いレベルに達していたところもあったことが明らかになることである。これに関しては五十嵐顕陸軍少尉(後に東大教授)に即して近刊『「わだつみのこえ」に耳を澄ます—五十嵐顕の思想・詩想と実践』(同時代社)でも論じている。それを承け、この共同研究は戦前の軍事と教養や学問について新たな知見を導き出すことを目指す。

なお、彼の学院論文は公刊されていないため、文章をワープロに入力し、電子情報化を進めている。